

平成 28 年度 国公立薬理学関連教科担当教員会議 議事録

日時：平成 28 年 8 月 25 日（木）12 時 00 分～17 時 00 分（含講演会）

場所：東北大学 川内北キャンパス B 棟 200 講義室

出席：国公立大学（17 大学中 17 大学参加）

私立大学（57 大学中 54 大学参加）

薬理学関連教科担当教員会議委員 87 名

欠席：薬理学関連教科担当教員会議委員 34 名

議長：岩崎 克典 委員長（福岡大学）

書記：桂林 秀太郎（福岡大学）

配布資料：会議次第

資料 1：出席者名簿

資料 2：席次表

資料 3：平成 29 年度役員（案）および教員会議役員構成内規

資料 4：第 101 回薬剤師国家試験問題検討委員会「薬理」部会報告書

資料 5：薬理実習に関するアンケート集計結果

資料 6：特別講演「薬剤師教育の将来」資料

参考資料 1：国公立薬理学関連教科担当教員会議会則

参考資料 2：薬理学関連教科担当教員名簿（薬学教育協議会より）

I 役員会

教員会議に先立って役員会が開催され、当日の会議次第および審議事項の確認作業が行なわれた。

II 本会議（本年度は二部構成で行われた）

【教員会議 Part1】

東北大学動物実験センターの笠井憲雪先生をお招きし、『「人道的な実験技術の原理から」から「ありがとう実験動物たち」へ』のタイトルで教育講演を頂いた。本年度実施した事前アンケートの内容が薬理実習に関することであったことから、実習動物倫理に関する情報を参加した教員で共有した。

【教員会議 Part2】

1. 委員長挨拶

岩崎克典委員長からの開会挨拶に続いて、今年の教員会議が二部構成になった経緯の説

明と、同所で同時開催されている「生体機能と創薬シンポジウム」の案内があり、会議途中の休憩時間に同シンポジウムのポスター閲覧の依頼があった。

2. 新委員紹介

岩崎克典委員長から、以下 2 名の本年度新委員の紹介が行われた。そして新委員からの挨拶が行われた。

石井 邦夫（横浜薬科大学）

藤野 裕道（徳島大学薬学部）

3. 次年度役員の選出について

岩崎委員長から、資料 3 に基づいて平成 29 年度の新役員案が提案され、審議の結果、原案どおり承認された。平成 29 年度新役員は以下の通りである。

平成 29 年度役員（任期：平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

委員長	武田 弘志	（国際医療福祉大学）
副委員長	福永 浩司	（東北大学）
副委員長	小山 豊	（大阪大谷大学）
参与	栗原 順一	（帝京大学）
参与	黒瀬 等	（九州大学）
参与	比佐 博彰	（九州保健福祉大学）
事務局	三澤 日出巳	（慶應義塾大学）
事務局補佐	大矢 進	（京都薬科大学）

4. 第 101 回薬剤師国家試験問題検討委員会「薬理」部会の報告

検討委員会担当の田中芳夫教授が本年度教員会議欠席となったため、代理出席の茅野大輔講師から、平成 28 年 5 月 14 日に開催された検討委員会について、報告書（資料 4）に基づいて説明と解説がなされた。

薬剤師国家試験の出題基準の範囲から満遍なく出題されており、特定分野への偏りは無かったとの報告があった。また一部、誤字や表現の誤りがあったものの、全体的によく練られた出題であったことも報告された。

5. アンケート集計結果の報告

岩崎委員長から、教員会議開催前に各大学に事前回答いただいた「新コアカリに準じた、新たな薬理学実習の取り組みに関するアンケート」の集計結果について、資料 5 に基づいて説明された。

薬理学実習の形態は国公立大学と私立大学で大きく異なる側面もあったため、アンケ

ートの集計は両者に分けて集計および統計された。集計結果に対する意見は特に無かったが、事前アンケートには、今後の薬理実習の在り方について多数の意見が挙がった。詳細は、配布資料を参照されたい。

6. 日本薬学会薬理系薬学部の活動について

同部会長の南 雅文教授（北海道大学）より、本部会の活動についての説明があった。特に、薬理系薬学部の活動として、「生体機能と創薬シンポジウム」および若手による「次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム」を開催しており、積極的な参加および協力の依頼があった。

7. 次年度本会議の案内について

武田弘志教授（国際医療福祉大学）が来年度委員長となることが本会議で承認されたことをうけ、武田弘志教授から、来年度の教員会議も「生体機能と創薬シンポジウム」と合同で開催することが告げられた。会議は平成 29 年 8 月 24 日（木）に京都大学薬学部のキャンパスにて開催することが提案され、承認された。詳細は決定次第お知らせすると述べられた。また、次年度のアンケートの実施については、実施するか否かを含めて会議開催校に委ねることで承認された。アンケートを実施しない場合は、その時間枠を利用して代替案を提案すると述べられた。

8. 特別講演

名古屋大学大学院創薬科学研究科の赤池昭紀教授をお招きし、『薬剤師教育の将来－薬学教育6年制導入後の現状と課題－』のタイトルで御講演をいただいた。

赤池昭紀教授は薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員の立場から、以下の項目について紹介して頂いた。

- (1) 薬学教育6年制に至る経緯
- (2) 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂
 - * 薬学教育の今後の方向性（カリキュラム等）
 - * 薬剤師コンピテンシーについて
 - * 医療系科目について
- (3) 薬剤師国家試験
 - * 新国家試験
- (4) 薬剤師を取り巻く環境
 - * 医療イノベーションおよび高齢化社会への対応

補記：本会議終了後 18 時より、ホテルモントレ仙台にて「生体機能と創薬シンポジウム」
との合同懇親会が開催された。教員会議側からは 55 名の参加があった。会員同士の交流や
意見、情報の交換が活発に行われた。

以上、議事録とする。

平成 28 年 9 月 15 日

委員長 岩崎 克典